

日増しに寒さが身に染みて、そろそろコートの出番です。マスクも当たり前につける季節となりました。

現在会員登録数 3,427 人さま。次号は 12 月 22 日発行の予定です。／

＋-----◇◆◇ 目次 ◇◆◇ -----＋

【1】お知らせ

【2】コラム

《1》この本読んだ？

《2》イーハトヴ周遊 宮沢賢治の童話を読破する

《3》子どもの本の珠玉のことば

《4》行って来ました！

【3】全国のイベント紹介

【4】プレゼント

＋-----＋

■-----■
【1】お知らせ

● 講演会「ゲッチョ先生！その好奇心はどこからくるんですか！？」

参加者募集

講師：盛口満さん（沖縄大学教授）

日時：12月12日（土） 14：00～16：00

会場：大阪府立中央図書館 2階 多目的室（東大阪市荒本）

定員：40人（申込先着順） 参加費：無料

主催：一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団

共催：学校司書研究会「気になる本を読む会」

助成：子どもゆめ基金助成活動

お申し込み、詳細は↓↓

http://www.iiclo.or.jp/03_event/02_lecture/index.html#021212koenkai

● IICLO（大阪国際児童文学振興財団）移転10周年記念

フォーラム「子どもの本の現在（いま）と未来（これから）」視聴申込受付中！

※10月10日に出版クラブビル（東京）で無観客で開催し、収録した映像をインターネット配信します。

講師：

宇野 和美 さん（翻訳家、国際児童図書評議会副会長）

富安 陽子 さん（児童文学作家、当財団評議員）

竹下 晴信 さん（日本児童図書出版協会会長・評論社代表取締役社長）

宮川 健郎 （児童文学者、当財団理事長）

司会＝土居 安子 （当財団総括専門員）

視聴期間：2020年12月1日（火）～2021年2月1日（月）

募集期間：受付中 ～ 2021年1月26日（火） 視聴料：1,300円

◆ お申し込みは、外部決済システム「Peatix」から

イベント URL <https://10th-forum.peatix.com>

詳細は↓↓

http://www.iiclo.or.jp/03_event/02_lecture/index.html#10thforum

● 講演会「しかけ絵本に驚く、楽しむーイギリスの歴史からはじめてー」
視聴申込受付中！
※会場での講演会（11月28日開催）を収録した映像をインターネット配信します。

講師：三宅 興子 さん（当財団特別顧問、梅花女子大学名誉教授）

視聴期間：2020年12月22日（火）～ 2021年2月25日（木）

募集期間：受付中 ～ 2021年2月18日（木） 視聴料：1,500円

◆ お申し込みは、外部決済システム「Peatix」から

イベント URL <https://shikakeehon.peatix.com>

※会場での講演会は、定員40人（申し込み先着順）で参加申込受付中です。
当財団ホームページ「参加申込」からお申し込みください。

詳細は↓↓

http://www.iiclo.or.jp/03_event/02_lecture/index.html#021128koenkai

● 寄付金を募集しています

当財団の運営を応援いただける個人、法人の皆さまからのご寄付を募っています。寄付金は、当財団が行う講座・講演会など、さまざまな事業経費に充てさせていただきます。ぜひ、ご協力いただきますようお願いいたします。

<クレジットカードでご寄付いただけるようになりました>

詳細は → <http://www.iiclo.or.jp/donation.html>

● YouTube「大阪国際児童文学振興財団 公式チャンネル IICLO」

<https://www.youtube.com/channel/UCgPj7D2ReQ0J03zhMMLfuIA>

公開内容一覧は → http://www.iiclo.or.jp/m1_youtube/index.html

● 当財団公式 Twitter → https://twitter.com/IICLO_News

■ ----- ■
【2】コラム

《1》この本読んだ？ Yasuko's & Aya's Talk

『紙の心』エリーザ・プリチェッリ・グエッラ/作 長野徹/訳 STAMP

BOOKS 岩波書店 2020年8月 対象年齢：中学生以上

あらすじ：一人の少女が友だちになりたいというメッセージを本の中に挟む。すると、その本を図書館で見た少年らしき「だれかさん」から返事がきた。二人は、手紙をはさんだ『プークが丘の妖精パック』（キプリング著）の主人公のユーナとダンと名乗って文通を続ける。読者は手紙の内容によって、二人が施設に入れていること、薬を飲んでいることがわかってくる。そして、二人は会わないまま、お互いを「好き」になっていく。

Y：二人のいる施設はどんな施設？なぜ、二人はこの施設に入れているの？と謎が知りたくて一気に読みました。

A：私もとてもおもしろく読みましたが、読み終わったあと、複雑な気持ちになりました。詳しくは言えませんが、読んでいくと、この施設が親の望むよ

うな子どもに矯正するための施設だということがわかってくるからです。「記者あとがき」にもあるように、この本は「イタリアの権威のある児童文学賞の一つで、中学校の生徒たちの投票によって受賞者が選ばれるバンカレリーノ賞を受賞」しています。イタリアの多くの子どもが、親の期待に応えられない自分に苦しんでいるのかなと思ったのです。

Y：そのあとがきに「ディストピア小説」と書かれているように、作品世界は結末を含めてなかなか希望が持てず、ユーナとダンの恋愛、それに二人の周りの友だち関係だけが光と感じられます。施設内では子どもたちは番号で呼ばれ、プライバシーはありません。

A：番号で呼ばれるのはナチスを思い起こさせます。そして、二人が施設に入れられた背後には、クローン技術や、知性に否定的で権威的な父親の存在があり、現代社会批判が読み取れます。

Y：施設内では、過去の苦しいことが忘れられると言われて、子どもたちは薬を飲み続けます。脳を操作するということの恐ろしさ、そして「記憶」とは何かということもこの本のテーマの一つだと思いました。

A：作品内に数多くの本が出てきて、読んでいない本もあったので読みたくなりました。「記者あとがき」に本の一覧と紹介があるのもうれしいです。

Y：インターネットの時代に主人公を救ったのは、手紙です。ユーナとダンが紙に自分たちの心を手で書いて伝えあいました。

A：書き換え自由な電子と書かれることによって留まる紙。記憶のありようの象徴とも受け取れると思いました。

* 今回のゲストはイタリア語の翻訳家、よしとみ あや（A）さんです。

《2》イーハトヴ周遊 宮沢賢治の童話を読破する

第63回「台川」

歩行と対話

前回の「十月の末」(当メルマガ NO.122)は、「村童スケッチ」と呼ばれる作品の一つですが、「台川」もまた、スケッチ風の作品です。

台川は、北上川の支流で、花巻温泉をめぐる山々のあいだを流れています。

〈[もうでかけましょう。] たしかに光がうごいてみんな立ちあがる。腰をおろしたみじかい草。かげろうか何かゆれている。かげろうじゃない。網膜が感じただけのその光だ。

[さあでかけましょう。行きたい人だけ。] まだ来ないものは仕方ない。さつきからもう二十分も待ったんだ。〉

これがはじまり。「何処さ行くのす。」と生徒にたずねられて、作品の語り手である先生は、「釜淵まで、一寸三十分ばかり。」とこたえます。語り手は、黒曜石の岩脈や流紋凝灰岩などの説明をしながら、上流へと歩いていきます。「歩行者の意識に密着した散文の形式」(天沢退二郎 1986年)です。散文ではなくて詩(宮沢賢治のことばでいえば、「心象スケッチ」)ですが、「わたくしはずいぶんすばやく汽車からおりた／そのために雲がぎらつとひかつたくらぬだ」という書き出しの「小岩井農場」が、歩行者の意識に密着して記述されていたことを思い出します。

「台川」の場合は、語り手のことばが〔 〕(亀甲カッコ)で示され、生徒たち

の会話は「 」(カギカッコ)でくくられます。語り手のことばは、生徒たちへの呼びかけであると同時に、語り手自身のなかにひびく心中語のようにも聞こえるのです。

生徒たちは藤原清作や佐藤箴(かん)といった実名で登場し、その名前から、執筆は賢治の農学校教諭時代の1922年ごろと推定されています。語り手は、生徒たちが足をすべらせないように、「水の流れるところをあるきなさい。水の流れるところがいいんです。」と繰り返します。生徒たちを引率して釜淵の滝まで行く、川沿いの遠足がスケッチされていくのに、不意に、語り手の語りに「足をさらわれて淵に入った」という「空想のときの暗い谷」があらわれます。そこに、「賢治文学の独特の感性による幻想性」を見る意見もあります(牛崎敏哉2003年)。(馬車別当)

(本文の引用は、角川文庫版『イーハトーボ農学校の春』によりました。)

《3》子どもの本の珠玉のことば 17

いつか ある日の 自転車のって
やってきたのは だれだろう
ゆかいな ゆかいな ゆうびんや
野こえ 山こえ かなたから……

(『ゆかいなゆうびんやさん』ジャネット&アラン・アルバーグ/作 佐野洋子/訳 文化出版局1987年10月 p.2)

大阪府立中央図書館では、現在、展示「しかけ絵本に驚く、楽しむ—イギリスの歴史からはじめて—」を開催していますが、『ゆかいなゆうびんやさん』もイギリスの楽しいしかけ絵本です。

「ゆかいな ゆうびんやさん」が、おとぎかいどうの住人たちに手紙を届けるという枠組みで、3びきのくまは、ゴールドロックから誕生会の招待状をもらい、おかしの家に住む魔女は、「魔女のほら穴宅急便」からのダイレクトメールを受け取り、まめの木農園の大男は、旅先のジャックから絵はがきをもらい、シンデレラもオオカミも手紙をもらいます。

それらの手紙は、封筒に入っていて、封筒には切手やスタンプ、住所まで書かれているという凝りよう。手紙の種類もカード、宣伝、弁護士からの訴状、お誕生日カードとさまざまで、一つ一つが昔話のパロディになっています。ゆうびんやさんが最後に訪れるのは、ゴールドロックの誕生日会で、この作品の多くの登場人物が参加して盛り上がり、ゆうびんやさんは、お茶を飲みます。

どの家に行ってもお茶が出されるのも、マザーグースのことばがちりばめられているのも、ぽっちゃりしたシンデレラなどのように絵から昔話のその後が読み取れるのも、皮肉のきいた笑いもイギリスらしさを感じる絵本です。そして、引用した絵本の冒頭のことばから、昔話やマザーグースが人々の心のふるさととしてあることが伝わってきます。(Y)

《 4 》 行って来ました！

奈良県立美術館で、12月13日まで開催されている特別展「ブラチスラバ世界絵本原画展 こんにちは！チェコとスロバキアの新しい絵本」に行ってきました。「ブラチスラバ世界絵本原画展」は、スロバキア共和国の首都ブラチスラバで2年ごとに開催される世界最大規模の絵本原画コンクールで、過去2年間に出版された絵本を対象に各国から選出され受賞作が決まります。

展示は「チェコとスロバキアの新しい絵本」「B I B 2019 受賞作品」「B I B 2019 日本代表作家」の三部で構成されており、絵本原画、下絵、版画の原版、紹介パネル、製本された絵本など 200 点以上が展示されています。今回は、チェコとスロバキアと日本以外の受賞作品はパネル展示でしたが、原画で見られた絵が魅力的で満足感のある展覧会でした。

チェコとスロバキア両国と日本の国交 100 周年にちなんで、チェコは B I B 出品の 6 人 + 2 人、スロバキアは B I B 出品の中から 7 人の作品が展示されています。テレザ・コレツカー・ヴオストラドフスカ（チェコ）の『ネコと断面』は、いろいろなものの正面と断面が描かれています。精密な植物画のような食虫植物ウツボカズラの絵は、断面では袋の中の消化液に浸かった虫やネズミがユーモラスです。ウラジミール・クラール（スロバキア）の『鳥の伝説』のアクリル絵の具で描かれたいろいろな表情の鳥の絵は構図がユニークで色がとてもきれいでした。チェコとスロバキアの作品をまとめて見られたことで、物悲しい人物の表情や背景の色に共通点を見出すことができました。

パネルで紹介されていた受賞作品では韓国のみョン スジョンの薄い赤を基調に淡い色合いで繊細に描かれた『世界の果てまで広がるスカート』が魅力的で、いつか原画で見たいと思いました。

日本の作品は、金牌を受賞したきくちちきをはじめ、出品された 15 組の作家の原画が展示されていました。中でもさかたきよこのコーナーは、『金の鳥』の原画や金色が美しい版画作品、インスピレーションをうけたことばのメモなども展示されていて興味深かったです。（K）

奈良県立美術館 <http://www.pref.nara.jp/dd.aspx?menuid=11842>

■ ----- ■

【 3 】 全国のイベント紹介

■ ----- ■

● 資料展示「しかけ絵本に驚く、楽しむーイギリスの歴史からはじめてー」三宅興子さんが大阪府立中央図書館 国際児童文学館に寄贈された、英語圏を中心とする貴重なしかけ絵本で、約 200 年の歴史をたどります。

会 期：開催中～12月27日（日） 休館日あり

会 場：大阪府立中央図書館 展示コーナー、国際児童文学館（東大阪市荒本）

主 催：大阪府立中央図書館 国際児童文学館

協 力：一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団

上記イベントの詳細およびその他の講座・講演会、展示会、公募情報については、こちらからご覧ください。↓↓

http://www.iiclo.or.jp/03_event/04_other/index.html

※イベントの開催内容が変更される可能性があります。最新情報は主催者へお問い合わせください
※イベント情報をお送りください。当財団HPに掲載させていただきます／

■ ----- ■
【4】プレゼント
■ ----- ■

今号のコラム《1》「この本読んだ？」で紹介しました『紙の心』を1名の方にプレゼントします。ご希望の方は、メールで件名「メルマガ NO.123 プレゼント希望」とし、(1)お名前 (2)郵便番号・住所 (3)電話番号 (4)メールアドレス、よろしければ (5)このメルマガのご感想をお書きのうえ office@iiclo.or.jp にお送りください。
締切は12月10日(木)、当選発表は発送をもって代えさせていただきます／

編 | 集 | 長 | の | つ | ぶ | や | き |
— | — | — | — | — | — | — | — |

秋も深まり紅葉が見ごろを迎えました。モミジとイチョウがメインだと思っ
ていましたが、ケヤキや桜、ハナミズキなども決して負けていません。美しい
彩りがしばし心を和ませてくれます。まちなかでは12月上旬まで紅葉が楽
しめそうだということです。暖かくして近場を散策してみるのもいいです
ね。(TA)

みなさまのご意見・ご感想をお聞かせください。下記メールアドレスまでお
願いします。

原則として返信はいたしませんのでご了承ください。

- このメールマガジンは、ご登録いただきました皆様に配信しています。
- 配信の登録・解除・変更は、
http://www.iiclo.or.jp/m1_magazine/index.html パソコンからどうぞ
- このメールの送信アドレスは配信専用です。
- 記事の無断転載はご遠慮ください。

発行：一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団 <http://www.iiclo.or.jp/>
〒577-0011 大阪府東大阪市荒本北1-2-1 大阪府立中央図書館内
TEL：06-6744-0581 FAX：06-6744-0582 E-mail：office@iiclo.or.jp
